

ちゅうおう

<地区人口と世帯数>

男 19,238人 女 20,746人
計 39,984人
世帯数：20,998世帯
(3月1日現在)



市からのお知らせ

【編集発行】

福島市役所広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎525-3710 ㊚536-9828

令和2年度 市住民自治組織会長表彰式

市住民自治組織会長表彰式



2月21日、ザ・セレクトン福島で、市住民自治組織会長表彰式が行われました。町内会などの会長として市政の進展と地域住民の福祉向上に貢献し、功績のあった方々を功労表彰(在職10年以上)と一般表彰(在職6年以上)として表彰しました。

中央地区では、功労表彰、一般表彰それぞれ5人(計10人)が受賞し、表彰式に出席した功労表彰受賞者5人に市長が表彰状を手渡しました。

■問/地域共創課 ☎525-3731

【功労表彰】

長谷川好美 様(中町中和会) 原田 紀之 様(新浜町会) 清野 孝信 様(五十辺親交会)
清水 徹 様(富士見町会) 齋藤 浩之 様(野田町北部町会)

【一般表彰】

北村 壽一 様(早稲町会) 真田 順 様(松浪町協和会) 長南 常雄 様(祓川親和会)
加藤 節子 様(カメラヤコーポラス町会) 小笠原貞夫 様(太田町六華町会)

中央東・中央西地区

ふくしま共創のまちづくり計画～個性と魅力あふれる地域を目指して～

市では中央地区(東・西)と支所(出張所)を単位とした18地区(地域)において、地域の皆さんが自ら策定し、自ら実行し、魅力ある地域とするために「ふくしま共創のまちづくり計画」を市民の皆さんと共にそれぞれ作成しました。

この計画は、地域の皆さんの取り組みで地域の目指すべき将来のまちの姿(地域ビジョン)を実現するためのものです。地域課題の解決に向けた取り組みについては、内容の検討や実践において地域の皆さまに関わっていただくことが重要となって参りますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本計画は市ホームページに掲載されておりますが、今後地域の皆さまにお知らせして参ります。

また、計画決定に際して地区内パブリック・コメントを実施し、中央東・西地区ともに1名2件ずつのご意見をいただいております。意見の概要と意見に対する考え方を併せて掲載しております。

■問/地域共創課 ☎525-3731



◆地域ビジョン

<p>中央東</p>	<p>「県都福島市の顔として、地域住民が誇りを持ちながら、ずっと住み続けたいと思えるまち」 「地域住民が互いに協力し、安全に安心して健康に暮らせるまち」 「地域住民と企業、商店街、学生との連携のもと、市内外から来る多くの人でにぎわうまち」</p>	 花によるおもてなし事業
<p>中央西</p>	<p>「県都の玄関口として、訪れる人も住む人も温かさにとぎわいを感じられるまち」 「住民が互いに助け合う気持ちを持ち、地域全体が安全・安心で心地良く生活できるまち」 「幅広い世代や企業と地域が交流する明るいまち」</p>	 みんなで歩こう 三河台参加者の皆さん

中央学習センターからのお知らせ

【編集】福島市中央学習センター
〒960-8018 福島市松木町1番7号
☎534-6631 ☒533-7592

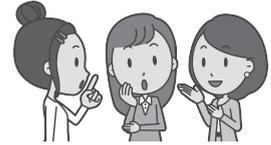
令和3年度学級生募集!

中央学習センターでは、年間を通してさまざまな学習をしていただくために、下記のとおり各種学級を開設します。どうぞ、お問い合わせのうえ、ご参加ください。

【家庭教育学級】「義務教育コース」

教育に関する専門家の方々の話を聴いたり、受講生同士で語り合ったりしながら、わが子の良き理解者・支援者になれるよう、子どもを取り巻く課題を解決する糸口を一緒に探っていきましょう。お待ちしております。

- ★対象者：小・中学生のお子さんをお持ちの保護者の皆様(祖父母もOK)
- ★ところ：中央学習センター ★定員：20名(先着順)
- ★期間：6月～11月(主に月曜日、年間10回程度)
- ★時間：午前10時～正午(学習内容によって変わる場合有)
- ★受講料：500円(資料代、通信費等)
- ★申込み：4月19日(月)～5月末日までに、窓口で申込みください。電話受付は21日(水)から。定員に満たない場合は申込み締切後も受け付けます。



- ※中央地区の小・中学校には、後日募集チラシを配布しますので、ご覧ください。
- ★主な学習内容
 - ・子どもの心理と親の関わり ・子供を取り巻くネット社会、現状 ・高校受験の実情について
 - ・お小遣いについての金銭教育 ・子どもの心や体の変化と健康など

【中央女性アカデミー】2コース

新しいことにチャレンジしたい! 学習したい! 女性が集まり、関心を持っていること、暮らしに役立つこと、地域に役立つこと、など、様々な分野を学習する講座です。きっと新しい自分に出会えるはず! 自分磨きをスタートしましょう!

- ★対象者：中央地区在住・在勤のおおむね20代～60代の女性
- ★コース：月曜日コース・金曜日コースの2コース
- ★ところ：主に中央学習センター
- ★定員：各コース25名(先着順)
- ★期間：4月～翌年2月(主に月2回、年間19回程度)
- ★時間：午前10時～正午(学習内容によって変わる場合有)
- ★参加費：年額1,000円(保険代・資料・運営費等)
- ★申込み：4月5日(月)より窓口で受付を開始。電話受付は7日(水)から
- ★主な学習内容
 - ・教養 ・健康 ・運動 ・手工芸 ・施設見学 など



<合同開講式・記念講演のお知らせ>

- ★とき：4月16日(金) 午前10時～正午
- ★ところ：中央学習センター
- ★内容：「コロナ禍で前向きに過ごすヒント」
- ★講師：産業カウンセラー・
睡眠改善インストラクター
大槻 美恵子 先生

おうちでごみダイエットを実施しました

福島市のごみ排出量が全国ワースト3である現状を打破すべく、地域と学習センターが連携し、ごみ減量の機運を盛り上げるきっかけづくりの事業を実施しました。

各学習センターから約10世帯を選抜し、1月18日(月)～2月14日(日)の間、段ボールコンポストに入れる生ごみの重さを計測。最もごみ減量を達成したチームやよりよいアイデアを出したチームが表彰されました。中央学習センターチームも、「食品ロスに引き合えたで賞」を獲得しました。



ヤングカレッジ中央 お試し講座「陶芸でオリジナルの器作り」

6月から開講するヤングカレッジ中央のお試し講座です。受講生の様々なアイデアで物作りやスポーツ、料理等の活動を通して、仲間づくりをしています。

今回は初心者向けに陶芸教室を開催します。ステキな自分だけの器を作ってみましょう。

- ★日時：4月22日(木) 午後7時～8時ごろ
- ★ところ：中央学習センター 2階ホール
- ★対象者：福島市在住または在勤、在学の18歳～35歳の方
- ★参加費：1,300円
- ★準備物：汚れても良い服装、エプロン
- ★申込み：窓口、電話、メール(chuou-ic@mail.city.fukushima.fukushima.jp)で受付。

令和やさしい地元学 信夫野・歴史の細道

ふくしまけん歴史の案内人の会 会長：紺野 義行氏
(元福島県遺跡の案内人の会)

①戦国時代に「福島」の名称が誕生した

地元学を名乗るコラムのスタートは、「地域の形」を象徴する名称「福島」をズームアップすることが一番かも知れない。「福島」の名称は意外なことから誕生した。天正18年(1590)木村吉清という豊臣秀吉の家臣が旧大崎・葛西領12郡30万石を与えられたが、領地経営がうまくいかず、一揆が発生し責任を問われ領地没収となった。行く当てがなくなった吉清父子を秀吉の命により蒲生氏郷が客将として5万石で大森城に迎えることになった。まもなく、文禄元年(1592)に木村吉清は居城を大森から杉妻城(すぎのめじょう)に移し、杉妻を「福島」と改称した。吉清は大森城下の町名を福島の城下に移し、福島の町づくりを始めた。城下町の町割りにはタテ型とヨコ型があるが、吉清のつくった福島の城下町はヨコ型の町割りである。街道は城に向かず、街なかを南から北に通り返り、人や物の移動に便利のように設計がされている。かつて城代を務めた龜山城の町割りと同じである。時代により町の名称は少し変わったが、板倉氏の時代は南側から柳町、荒町、中町、本町、上町、北南(ほくなん)町、馬喰(ばくろう)町と並ぶ城下七町制だった。「本通り七カ町」と呼ばれていた。



その中でも本町は、大名や幕府役人が宿泊する本陣、脇本陣や、問屋などの大きな店があることから、城下町の中心地となった。本町は明治に入り、商業の町福島市の中心として栄えてきた。明治10年(1878)から万世大路(ばんせいたいろう)が開かれ、明治20年(1888)年に東北本線が開通し、福島駅に向かう栄町通りが開かれ、新旧の国道と駅前通りが交差する四つ角となり、ここから本町は商業の町・福島の中心地となっていく。

現在の福島県の成立は明治9年(1876)である。廃藩置県後の紆余曲折の後、若松県、福島県、磐前県の3県が合併し成立した。県名は県庁所在地となった福島町(現・福島市)から採ったものである。当然、名付け親は木村吉清になるのか? 吉清は初めての地に来て、なぜその地を「福島」と名づけたのだろうか? 初めて大名として赴任した地を追われた自分の将来を託し、強い願いを新しい町の名にあらわしたのか、それとも、この地に昔から伝えられるさまざまな伝説から採ったものなのか判然としない。いずれにしても、「福島」という地名の由来は明らかではない。由来不明のまま「福島」を県名にしていることが、福島県の特徴にもなっている。余談になるが、福島県が県の魅力発信にと、この度開発した県のオリジナル高級米の名称は「福、笑い」である。今年の漢字一字は、コロナ克服を込めて「福」を願う。

各講座の受付時間は午前9時から午後5時45分まで(火曜日・祝日は除く)となります。

! 新型コロナウイルスの影響により、日程の変更や中止になる場合もありますのでご了承ください!